

[成果情報名]ブドウ「甲斐のくろまる」の良果房生産のための栽培管理方法

[要約]「甲斐のくろまる」は、開花始めに花穂をフルメット 5ppm 溶液に浸漬すると、着粒が安定し良果房の割合が高まる。また若木では、5BB 台に比べ 101-14 台は房形の良い果房の割合がやや高い。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・生食ブドウ育種科・内藤一孝

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

「甲斐のくろまる」は平成 25 年に品種登録された山梨県オリジナル品種で、早生で着色が良く、食味が優れる紫黒色の四倍体品種であり、盆前出荷が可能な地域や巨峰系品種の着色不良が問題となっている地域を中心に導入が期待されている。一方品種登録されて数年しか経過していないため、栽培管理方法については不明な点もある。そこで、「甲斐のくろまる」の高品質安定生産に向けた栽培管理方法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 開花始めに花穂をフルメット 5ppm 溶液に浸漬すると着粒が安定し、良果房の割合が高まる(表 1、2)。
2. 花穂下部 4 cm で花穂整形を行うとともに摘粒時に軸長を 7 cm、35 粒程度に調整し、栽培管理の手引きに沿った管理を行うと、果粒重は 16g を超えて果房重も 500g 以上となる(表 3)。
3. 若木では、5BB 台に比べ 101-14 台は房形の良い果房の割合がやや高い(表 4)。なお、5BB 台も樹齢とともに良果房の割合が増す傾向にある。

[成果の活用上の留意点]

1. 開花始めのフルメット液剤処理は、圃場内でいずれかの花穂の開花を確認したら、直ちに園全体で実施する。
2. 花冠をかぶったまま内部で開花している場合が多いので、1 回目のジベレリン処理が遅れないように注意する。なお 1 回目のジベレリン処理は、開花始めにフルメット液剤を使用するので、ジベレリン単用とする。
3. その他の栽培上の留意点については、平成 29 年度「甲斐のくろまる」の栽培管理の手引きを参照する。

[期待される効果]

1. 高品質な果実生産が可能となる。

[具体的データ]

表1 フルメット液剤処理時期の違いが着粒に及ぼす影響(2015)

試験区	軸長 (cm)	着粒数 (粒)	着粒密度 (粒/cm)
開花始処理区	8.1	40.2	5.0
満開期処理区	7.7	33.5	4.4

台木:101-14台、樹齢:7年生、長梢剪定樹
 開花始処理区:開花始めF5ppm、満開時GA25ppm、2週間後GA25ppm
 満開期処理区:満開時GA25ppm+F5ppm、満開2週間後GA25ppm
 花穂下部4cmで花穂整形を行い摘粒前(6/8)に調査

表2 フルメット液剤処理時期の違いが良果房割合に与える影響(現地圃場)

試験区	年次	調査 果数	房形評価		
			A	B	C
開花始処理区	2015	60	17%	48%	35%
	2016	43	42%	42%	16%
満開期処理区	2015	40	3%	43%	55%
	2016	27	44%	30%	26%

房形評価)A:まとまった果房ですき間のないもの B:まとまった果房だが、ややすき間がある C:着粒悪くパック出荷のみ
 収穫時に調査を実施 各処理区の植物成長調整剤使用方法は表1に準じる
 樹齢:5~6年生(2015~2016年)、台木:5BB台、長梢剪定樹

表3 「栽培管理の手引き」に沿った栽培管理による果実品質

年次	調査日	果房重 (g)	果粒重 (g)	着粒数 (粒)	糖度 (Brix)	着色 (c. c.)
2015	8/6	580.8	16.5	35.8	18.0	12.0
2016	8/3	566.5	16.7	34.8	17.0	12.0

台木:101-14台、樹齢:7~8年生(2015~2016年)、長梢剪定樹
 (開花始めF5ppm、満開時GA25ppm、2週間後GA25ppm)
 収量:1.3t/10a(2015年)、1.2t/10a(2016年)
 花穂下部4cmで花穂整形を行い摘粒時に軸長を7cm、35粒程度に調整

表4 台木別の良果房割合(現地圃場)

年次	台木	調査 果数	房形評価		
			A	B	C
2015	101-14	80	16%	55%	29%
	5BB	80	8%	46%	46%
2016	101-14	200	55%	43%	3%
	5BB	200	42%	50%	8%

調査は収穫時に実施 房形評価基準は表2に準じる
 樹齢:5~6年生(2015~2016年)、長梢剪定樹
 (開花始めF5ppm、満開時GA25ppm、満開2週間後GA25ppm)

[その他]

研究課題名: 県育成オリジナル品種の栽培技術の確立
 予算区分: 県単(重点化)
 研究期間: 2014~2016年度
 研究担当者: 内藤一孝、小林和司、雨宮秀仁、塩谷諭史